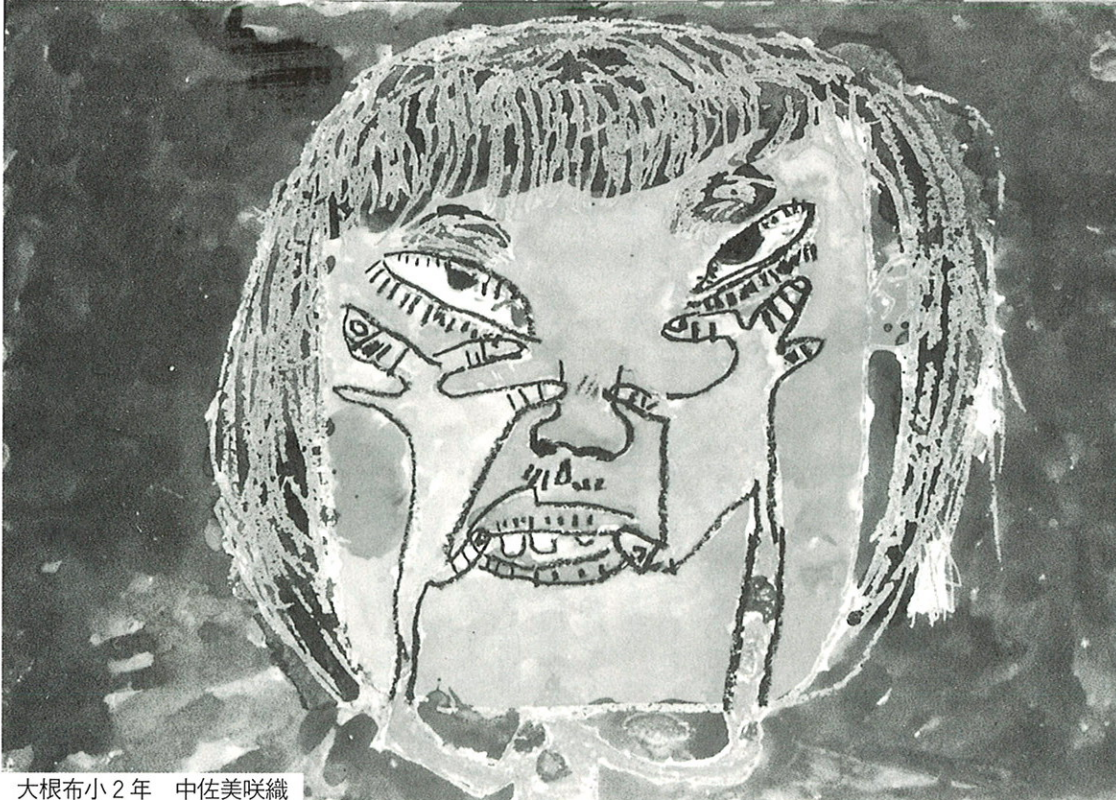




大根布小2年 中村 祐弥



大根布小2年 中佐美咲織

## 内灘町ジュニア 美術展作品より

- 〔主な内容〕
- 特集—ゆたかな心をはぐくもう— (P2~3)
  - 平成十一年度上半期財政状況 (P4~5)
  - 秋の叙勲表彰 (P6)
  - 婦人意見発大会 (P7)

# ゆたかな心をはぐくもう



こころのバリアフリーを目指して

スーパーの缶詰は手で触っても、どれも同じですね。カニ缶なのか、マグロの缶詰なのか、においもしないので中身は解りません。では箱に入ったお菓子は？シャンプーとリンスの区別は？目をつむってみてください。五感を研ぎ澄まして……  
あなたは、どれだけ回りの世界を「見る」ことができますか？

内灘町人権教育推進委員会では、町内の小学校や公民館で、人権にかかわる教育を実施しています。講演会の開催や点字の習得、視覚障害者の方との交流を図ったりなど、いろいろな角度から、心の壁を取り除く教育を行っています。



堀江正子 さん  
(盲導犬シルビアと)

シルビア（盲導犬）が来てから、生活の幅がうんと広がりました。私は彼女に命を預けているといつも過言ではありません。彼女のおかげで「今日はいつもと違った道を歩いてみようかな。」と思うこともありますし、気軽に散歩も楽しむことができます。障害を持った人は決して「かわいそう」などではありません。私たちはみなさんと違う世界の間人ではないということをわかってください。みなさんと同じ感情を持ち、天気のいい日は外へ出て元気に体を動かしたいし、スポーツもしたい、旅行もしてみたいのです。ただそのためには、ちょっとだけみなさんの手助けが必要です。どうか少しの勇気を出して私たちに手を貸してください。声をかけてください。

向粟崎小学校で講師となられた堀江正子さんから、視覚障害者の方が日頃感じていることをお聞きしました。

◎私は、小学校一年生の二学期から視力を失いました。点字も小学校のときから勉強したので、案外早く覚えられました。年をとってから視力を失うと、指先の感覚も鈍ってきて点字を覚えるのに大変苦労します。点字教科書は、普通の四倍の厚さがあります。とてもかさばるので持ち運びがたいへんでした。  
◎白杖は人さし指を伸ばして握ります。右足を出すときは右足の前の安全を確認し、左足を出すときは左足の前の安全を確認します。それからようやく足が

前へ出るので、普通の人よりもずいぶんゆつくり歩くことになります。  
◎普段の生活をしていて一番怖いのは、交差点を歩くときです。なにしろ信号機の色が見えないので、車の通る音と、回りの気配で安全を確認しています。でも、安全だと思つて足を出しても、間違つていこともたくさんあります。そんな時そばにいる人がひとこと「今、青ですよ。」とか「いつしよに渡りましょう。」と声をかけてくださると、とても助かります。  
◎道路の側溝に蓋がされていないと、とても怖い思いをします。私たちは、道路の縁石などに杖を沿わせて歩くので、穴が開いていたりするととても危険なの

です。  
◎いつも通る道はちゃんと頭に入っているのですが、ある日突然工事が始まつていたりするところがあります。そんな時、私たちには工事中の看板が見えませんが、何が何だかわからなくなつて、パニック状態に陥ります。  
◎バス停の場所もたいへんわかりにくいのですが、次に何行きのバスがくるのかも全くわからないので、行きたい所に行くのにずいぶん時間がかかります。ひとこと声をかけてくださるととても助かります。  
◎キャッシュコーナーのポタンの位置は平面なので全然わかりません。

実際にお話を伺ってみると、私たちが普段何げなくしていることでも、障害のある方にはとても大変なんだということがよく分かります。

◎声の出る体温計。手で触って時間のわかる腕時計。目盛が指でふれられる物指し。書いたものが浮き上がる紙。など最近さまざまな道具が開発され、ずいぶん便利になったと堀江さんは語ります。また道路の段差も少なくなりつつありますし、音で知らせる信号機もずいぶん増えました。



「左へ曲がれ！」シルビアはちゃんと曲がります。

指示をする徳丸 舞さん

(向粟崎小四年)



「肩」手をかけてもらって誘導

向粟崎小四年 北川祐輔くん

けれど、ほんとうのバリアフリーは私たちのところの中にあります。背の高い人・低い人、日本人と欧米人、耳の不自由な人、体の弱い人、足の自由がきかない人、みんな同じこの地球号に乗り合わせた家族です。家族は助け合うのが当たり前。なんの気負いもてらいも、いらないのが当たり前。当たり前のことだから、バリアフリーなのです。



誘導の基本

・声をかけながら、相手の手をさわる。  
・自分の腕を持つてもらおう。(自分の背が低ければ肩を持つてもらおう。)歩くときは、持つてもらった方の脇をしめて、腕を振らない。  
↓腕を持った人がグラグラして歩きづらくなります。



・2列で歩けない狭いところは、持つてもらった腕を背中の方にまわす。

↓腕を持った人が狭い道だとわかりません。

・階段では一旦止まり「上り(下り)の階段がありますよ。」と声に出す。

↓ただ「階段」だけでは、上るのか下るのか解らないので足を踏み出させません。

・自分が上り(下り)終わったら、立ち止まって、腕を持った人が横に並ぶまで待つ。

↓立ち止まることが、階段が終わった合図となります。

・見えない情報は、ことばで教えながら歩く。

↓見えているように安心でき、コミュニケーションが図れます。



鶴ヶ丘小学校では  
いっしょうけんめい点字を覚えます。

「点字はそんなにむずかしくありません。覚えたら手紙を書きたいな。」  
(四年 横谷 百香さん)



向粟崎小学校では

「今日は楽しみにしていました。来てくださってありがとうございます。」などと書かれた点字の手紙をひとりひとりが堀江さんに手渡し、読んでもらいました。

お礼に笛の演奏を披露しました。  
(四年生)



清湖小学校では

二人一組で片方が目隠しをして廊下を歩いてみました。

これから道で目の不自由な人に出会ったら、助けてあげたい。

(四年 ジェファー君)  
たくさんぶつかりました。手を引いてくれる人がいなかったらとても怖いです。

(四年 長峰 祐輔君)



清湖小で講師をつとめた  
加藤 純さん  
(盲導犬カスミと)



# 状況

## 充ちた 園都市をめざして

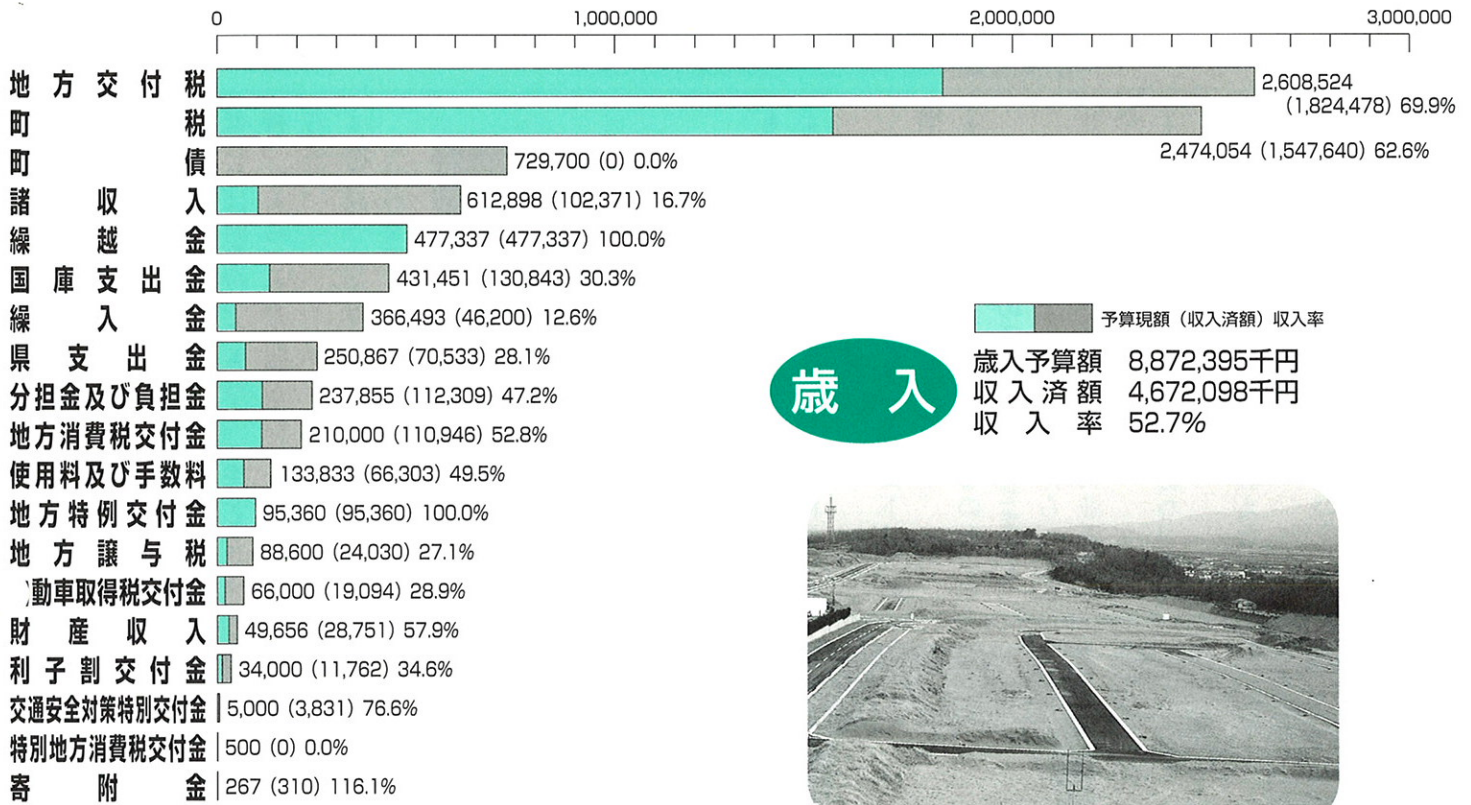
町の財政が、どのようになっているか皆さんに知っていただくために、毎年6月と12月の2回にわたって財政状況をお知らせしています。

今回は、平成11年度上半期の収入・支出の状況をお知らせします。

この財政状況の収入額及び支出額は9月30日現在のものです。

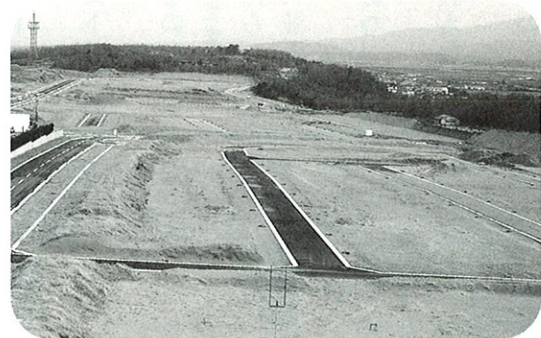


世界の風の祭典



### 歳入

歳入予算額 8,872,395千円  
収入済額 4,672,098千円  
収入率 52.7%



北部土地区画工事

### 基金の状況

(平成11.9.30現在)

(単位：千円)

財政調整基金	718,266	高齢者福祉基金	71,590
放水路架橋建設等基金	319,464	ふるさと農業環境保全基金	28,655
減債基金	301,288	児童生徒国際交流教育基金	14,463
国民健康保険事業財政調整基金	288,352	霊園事業財政調整基金	14,738
公共用地取得事業基金	244,347	災害等対策基金	10,531
土地開発基金	220,396	国民年金印紙購入基金	1,100
義務教育施設整備基金	149,607	公共下水道事業整備基金	691
公用、公共用施設整備基金	124,829	地域下水道事業財政調整基金	0
海と砂丘文学顕彰事業基金	100,113	合計	2,608,430

### 町債(町の長期借入金)の残高

(平成11.9.30現在)

(単位：千円)

会計名	残高
一般会計	8,017,667
公共下水道事業特別会計	9,584,769

### 一時借入金の残高

平成11年9月30日現在一時借入金はありません



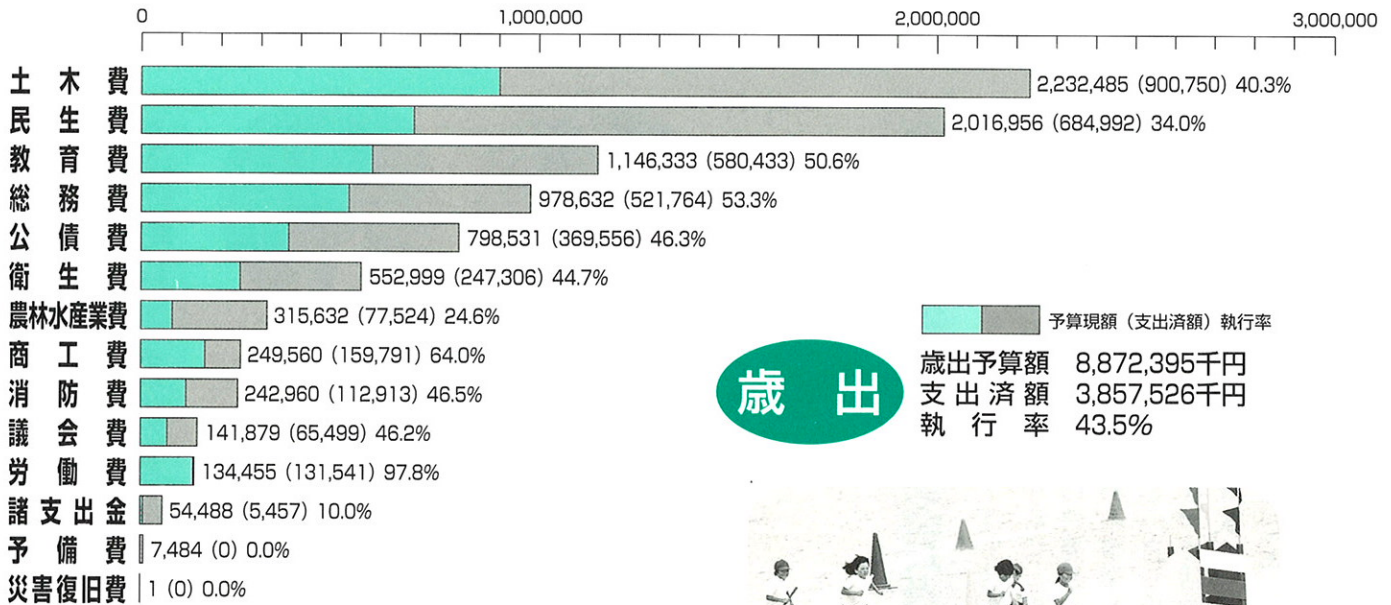
全線開通が待たれる  
諸江・向栗崎線



橋脚の枠組みが見え始めた  
(仮)内灘新橋

# 内灘町の 平成11年度上半期 財政

豊かな緑と健康に  
国際的文化的



**歳出**  
 歳出予算額 8,872,395千円  
 支出済額 3,857,526千円  
 執行率 43.5%

## 水道事業の経理

(平成11.9.30現在)

### 収益的収入及び支出

(単位:千円・%)

区分	予定額	執行額	執行率
収入	711,380	374,903	52.7
支出	664,493	296,820	44.7

小学校運動会



### 資本的収入及び支出

(単位:千円・%)

区分	予定額	執行額	執行率
収入	426,780	0	0.0
支出	486,560	30,683	6.3

## 特別会計の 予算執行状況

(平成11.9.30現在)

(単位:千円・%)

会計名	予算額	収入済額	収入率	支出済額	執行率
老人保健特別会計	2,212,384	985,930	44.6	960,228	43.4
公共下水道事業特別会計	2,015,031	780,266	38.7	667,599	33.1
土地区画整理事業特別会計	1,434,592	244,581	17.0	241,434	16.8
国民健康保険特別会計	1,391,634	566,726	40.7	557,547	40.1
霊園事業特別会計	22,683	22,417	98.8	5,537	24.4

# 栄えある受賞

# おめでとうございます

## 勲四等 旭日小綬章



前坂 文明 氏  
(緑台2丁目)

昭和二十三年、金沢地方裁判所輪島支部に勤務。以後、七尾支部、金沢地方裁判所の県内勤務の外、東京、名古屋、富山、福井の各裁判所に勤務されるなど、平成元年十二月三十一日に退職されるまで四十一年間の永きにわたり、裁判事務や司法行政事務など司法関係一筋に勤められました。

今回の受賞に当たり、前坂さんは「自分に与えられた仕事を当たり前に一生懸命こなしてきただけで、大変恐縮しております。」と温和なお人柄を偲ばせるように語っておられました。

現在は、金沢地方裁判所と金沢家庭裁判所の調停委員として、裁判所に持ち込まれる様々な問題に取り組み、公正な立場で真理の追求と正義の遵守に務められておられます。社会秩序の確立のため、これからも益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 自治大臣表彰



小原 孝義 氏  
(鶴ヶ丘1丁目)

選挙制度一一〇周年を記念し、多年にわたり選挙を明るくする運動にたい身され、民主政治の確立のためご尽力された功績で、小原氏に自治大臣から表彰状が授与されました。

小原氏は昭和五十三年四月から退職された本年十月までの永きにわたり、内灘町選挙管理委員として職務に精励され、その功績が認められての受賞となりました。

## 全国町村監査功労者表彰



本 幸治 氏  
(室)

町村自治の振興発展に多大なる功績があったとして、元内灘町監査委員の本幸治氏と宮田昭一氏に全国町村監査功労者表彰が贈られました。



宮田 昭一 氏  
(室)

両氏はいずれも四期十二年にわたり内灘町監査委員を務められ、町行財政の運営に卓越した見識を示されました。

## 全国地区衛生組織連合会会長表彰



森下 孝子 氏  
(鶴ヶ丘2丁目)

食生活改善を中心し、町民への啓発普及のための事業を立案し、自ら中心となつて活動を定着させてきた功績により、第三回地域保健全国大会において表彰されました。

## 日本スポーツ少年団表彰



向 幸作 氏  
(アカシア2丁目)

昭和四十九年から内灘町空手道教室の指導者として、空手道の競技力向上とスポーツを通じて青少年の健全育成を目指し、現在も日々稽古指導に励んでいます。今回は、二十五年間にわたつて、内灘町の子どもたちに指導していることがたたえられての表彰となりました。また氏は十三年間にわたつて内灘町スポーツ少年団本部長を、今年四月からは内灘町体育協会会長を努められており、内灘町のスポーツ発展に多大な貢献をされました。

## 県農業会議会長表彰



岡野 三郎 氏  
(西荒屋)

去る十一月五日(金)石川県地場産業振興センターで開催された第三十七回石川県農業委員大会の席上、岡野三郎氏が石川県農業会議会長表彰を受賞しました。

岡野氏は、内灘町農業委員として、農業の振興のための諸施策に積極的に取り組まれ、農業基盤の確立に尽力されています。

# 「よりよい生き方をめざして」

## 内灘町婦人意見発表大会

内灘町連合婦人会主催の、婦人意見発表大会が10月15日（金）役場町民ホールで開かれました。第19回の今年のテーマは「よりよい生き方をめざして」。

妻として、母として、そして地域に生きる一人の人間として、女性ならではの様々な心情が吐露され、それぞれが手探りでよりよい生き方を目指す有り様が切々と語られました。

最優秀賞には塩谷祐子さん（鶴ヶ丘西）の「親は子育て、子は…」が選ばれました。ここに全文をご紹介します。

### 親は子育て、子は…



鶴ヶ丘西

私には、3人の息子がおりま

す。なぜか3番目の息子は、生まれたときから、可愛くてしようがない、まるで愛玩動物のような存在として育ててしまいました。

「くそばばあ、はげ、でぶ、ぶす」

これが息子の私に対する日常のあいさつです。なんてかわい

いんでしょう。この並べ立てた沢山の可愛い単語は、中学生の頃から始まったように思います。

その頃は、関心するほど沢山の単語を、ぼんぼんと私に浴びせてくれたものです。

この息子とのかかわりが一番辛かったのも、その頃でした。

中学に入ると、やはり高校進学を前提にして、学校や塾、親からの「勉強」という圧力に耐えかねたのでしょうか、塾は1

年ほどでやめてしまいました。さらに、「これからは自力で計画的に勉強する」と約束したことを、どうも1ヶ月で忘れてし

まったようでした。

その後は、友達と遊びほうける事が多くなり、なぜか3日ほど続けて、友達と連るんで遊んで帰って来ると、私を見る目付きが、鋭くなるように思えてきました。

「友達が、あの子を悪くしているのでは」という考えが、一瞬頭をよぎりました。

「違う。友達を選ぶのも本人の裁量。ずるずると引きづられて行くあの子に責任がある」すぐにそう思い直して、息子が家にいる間に、その目付きを、元に戻すことに勤めるようにしました。

でも、それは繰り返しになるだけで、一向に改善の兆しはなくて、かえって少しずつ悪くな

って行くように思えました。「甘やかして育ててしまったのか」と思って少し厳しくしてみたり。試行錯誤して、焦りがあつたのかも知れません。

ある日、ついに息子と喧嘩になってしまいました。その揚げ句、「出て行け」と言い放つて、さらに「二度と帰って来るな」というおまけまで付けてしまいました。

「わかった」と言つて息子は出て行きました。「どうせしばらくしたら、けろつとして戻って来るでしょ」そう高をくくっていました。でも、その夜は帰ってきませんでした。

「しょうのない子」と言いながらも、「もう二度と帰つて来ないのではないか」という不安が頭をかすめます。

その頃息子は、本気で県外に出る計画を立てていたのだそうです。

そして、次の日も帰つてきませんでした。学校にも行つていませんでした。

その次の日には、仕事をしていても息子の事が頭から離れませんでした。

そして、心の奥の方から、言い知れない息子への愛しさとも、もし帰つて来なかつたら……、という不安と、寂しさと、反省が、私を包み込みました。

「出て行け」簡単なこの言葉の中に、なんと高飛車な、なんと傲慢な心が、存在していたのでしょうか。「親」という、子供にとつて犯しがたい存在の上に、ドツカリと胡座をかいていて、その中から出てきた言葉だったのです。

母親からそんな言葉を浴びせられた子供は、どんなに寂しい思いをし、傷付いただろうと思うと、大きな涙がボールペンの下の字を、見えなくしてしまいます。

この子が生まれて、初めておっぱいをあげたときの事。私の怠慢で怪我をさせてしまったときの事。そんな思い出が後から後から、私のこの胸の中からわ

き出るように出て来るのです。幼い頃から、私の心の過ちを照らし出す。そんな役割を果たしてくれる、だじな、だじな掛け替えのない子なのです。

やつと捜し出した息子に、私は素直な自分の心をぶつけました。

「あなたがいないとお母さん寂しい。」

「私が悪かつたごめんなきい。」

「お願いだから帰ってきて。」その事件以後、息子に対しては常に、素直な心で接するようになっていきます。もちろん私たちの間にあつたわだかまりは嘘のように吹き飛びました。

幼い頃から子供は、いろんな事をやらかしてくれました。親は必死で、それに対処します。親は、子育てをしながら、知らない間に子供に育てられているのですね。

高校2年の今年の夏休み、息子の頭は金髪になりました。さらに耳には、まるで唐辛子のようなピアスが刺さっていました。

はたから見ればヤンキーそのものの息子です。でも、この子の胸の奥の方に、純真で可愛い心が、キラキラと小さな光を放っているのを、親の私には、はつきりと見えるのです。

今は、楽しみながらそれを育てています。